

令和２年度 第２回教職員による学校評価（自己評価） まとめ

- 1 実施日
令和２年１２月１１日～２４日
- 2 回答率
小学部職員 94% 中学部職員 100% 高等部職員 100%
- 3 見方
評価の判断基準として、４段階のうち高評価（「４」もしくは「３」）の合計%で示している。

4 評価結果

(1) 数値による評価

ア 高評価（「４」もしくは「３」）の割合が高い項目（95～100%）

分類	評価項目	「４」・「３」の割合
安心・安全	安全点検やインシデント等の報告が適切になされ、児童生徒の安全に配慮した教育環境を整えるとともに、教職員の健康に配慮した職場であるか。	全体：95% 小学部：97%
人権	児童生徒の人権に配慮した教育活動が行われているか。	全体：97% 小学部：95% 中学部：100% 高等部：96%
	人権を尊重した人間関係が営まれ、適切な業務推進ができる働きやすい職場環境であるか。	小学部：99%
教育活動	PDC Aサイクルの活用に基づき、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、指導計画の作成や実践、評価が適切になされているか。	全体：98% 小学部：100% 中学部：100%
研修	喫緊の課題や高い専門性を探究し続けるため、教育公務員として必要な研修体制は充実しているか。	全体：95% 小学部：97% 中学部：100%
信頼	職員一人一人は、教育公務員としての責任を自覚し、相互に信頼し協力し合う体制が整っているか。	全体：96% 小学部：95% 高等部：100%
センター的機能	本校の教育活動の理解啓発に努めるとともに、インクルーシブ教育システムの構築に向け、地区内における特別支援教育のセンター的機能は充実しているか。	全体：97% 小学部：97% 高等部：100%
連携	家庭や保・幼・小・中・高等学校、関係機関との協力・連携が密になされ、指導・支援の共有化と教育効果の向上が図られているか。（出席日数の少ない児童生徒や不登校傾向の児童生徒への適切な支援）	全体：95% 小学部：95% 高等部：96%

イ 高評価（「４」もしくは「３」）の割合が低い項目（80%以下）

分類	評価項目	「４」・「３」の割合
働き方	効率的な業務の推進及び勤務時間の管理がなされ、心身の健康について意識できる職場であるか。（業務内容や働き方の見直し）	中学部：75% 高等部：79%